

- ・開催場所：平尾の棚田
- ・参加人数：計19名（大人11名、こども8名）
- ・講師：北野 大輔（淡海生物研究会 代表）

観察会中にみられた“田んぼの生きもの”

●陸上の生きもの（昆虫）

シオカラトンボ、ハラビロトンボ、ショウリョウバッタ、イナゴ類（コバネイナゴ、ツチイナゴ）、ヒシバッタ類、ツコムシ、カマキリ、モンキチョウ、マメコガネ、ゴマダラカミキリ、カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

●水中の生きもの

- ・両生類：アカハライモリ、カエルの幼生（アマガエル?）
- ・昆虫：コオイムシ、ヒメアメンボ、コミズムシ類、ヒラタガムシ類（スジヒラタガムシ、キベリヒラタガムシ）、マメガムシ、チビゲンゴロウ、コガシラミズムシ、トンボのヤゴ（アカネ類）
- ・その他：ヒラマキミズマイマイ、アメリカザリガニ、ミズアブ類の幼虫、ユスリカ類の幼虫（アカムシ）、イトミミズ類

※赤文字：環境省もしくは滋賀県レッドリストに選定されている種

総括

中干し終了直後の水田での観察会となりましたが、多様な水生生物を観察できました。これは、水田につながる水路が護岸されておらず植物が生育し、常に水があることが要因として大きいと考えられます。小型の昆虫が多くみられましたが、それらの餌となるより小型の生物が多く存在することを表しています。また、陸上昆虫、水田以外の場所で越冬する水生昆虫が多く見られたのは、小規模な田んぼが連続し、水路、ため池や森といった多様な環境が近距離に存在する棚田の特徴であると言えます。

